

日本多施設共同コーホート研究(J-MICC Study)
平成22年度 第2回研究モニタリング委員会議事録

日 時: 平成23年1月7日(金)13:30~16:30

場 所: ウィンクあいち 13階1306号室 (名古屋市中区名駅4丁目4-38)

出席者: 岡山明(委員長)、中山健夫、山縣然太郎、黒沢洋一、尾島俊之(以上、委員)
(敬称略) 栗木清典(静岡・桜ヶ丘研究責任者)
田中英夫(主任研究者)、若井建志、浜島信之、内藤真理子、森田えみ、銀光、
川合紗世、岡田理恵子、東端孝博、田村高志(以上、中央事務局)

1. 平成22年度第1回研究モニタリング委員会議事録の確認

平成22年度第1回研究モニタリング委員会議事録の内容を確認した。

2. 研究進捗状況、倫理審査の実施状況について

研究の進捗状況について、中央事務局より参加者が5万人を超え、連合を合わせると6万人を超えたことが報告された。委員より今後はJ-MICC年齢対象外の参加者数・検体数も明記するよう要望が出された。また主任研究者の交代および共同研究者の追加が愛知県がんセンターの倫理審査で承認されたことが報告された。

3. 第二次調査のサイトビジットの実施状況について (あまみ、佐賀地区)

10月より第二次調査があまみ、佐賀地区にて開始され、サイトビジットが行われたことが報告された。また各委員会の開催状況も報告された。委員より社会的諸問題検討委員会に議事録を中央事務局に提出することを求めるべきではないかとの意見が出された。

4. ベースライン調査新規開始地区(静岡・桜ヶ丘)の研究計画の検討

新たにベースライン調査を開始する静岡・桜ヶ丘地区の研究計画について、静岡県立大学の栗木先生より説明がなされた。社会保険桜ヶ丘総合病院健康管理センターを受診する人間ドック受診者および健診車を使用した事業所の検診の参加者を対象とすること、一日20~30人の参加、全体で5000人の参加を目標とすること、健康管理センターのスタッフには説明を行い協力していただける理解が得られていることなどが説明された。委員より、2カ所で同時に開始するのは大変なので、まずは健康管理センターの受診者を対象とする調査を軌道に乗せてから、事業所への事前の説明をしっかりと行った後に、必要に応じて事業所の健診受診者を追加するほうが良いのではないかとの意見が出された。

5. 静岡地区の個人識別情報管理について

現在静岡地区の個人識別情報を含む情報は聖隷予防検診センターのみで取り扱っているが、センターに災害等の不測の事態が生じた場合にも研究が継続出来るよう、情報のバックアップをセンター以外に保存するため、名古屋大学大学院医学系研究科公衆衛生学/医学ネットワーク管理学の八谷先生を個人情報管理者に追加して、情報のバックアップの管理を依頼することが中央事務局より報告され承認された。大幸研究についても同様に扱うこととした。

6. 横断研究について

遺伝子多型横断研究の論文作成状況について中央事務局より報告された。また今後対応する保存血清・血漿の測定項目の予定を示し、今年度は約3000人の血漿を用いて葉酸およびビタミンB12を測定する予定であることを報告した。委員より同意撤回等があった場合にデータセットを更新するののかとの質問があり、中央事務局よりデータセットは順次更新していく方針であることを説明した。

7. 食物摂取頻度調査票の再現性、妥当性の検討について

中央事務局より、J-MICC研究参加の各地区から男女12人以上、全体で285人以上の協力者に食事記録を基準とする食物摂取頻度調査票の妥当性に関する研究を行う予定であることを説明した。委員より各地区の協力者数が少ないため各地区内での検討が難しいのでデータを統合することは問題ないかとの質問があり、本調査票の開発チームのメンバーと再度討議した上で調査を行うかどうかを検討することとなった。

8. 学会・論文発表状況

学会・論文発表状況について中央事務局より報告された。

9. その他

平成23年度の研究モニタリング委員会およびサイトビジットの予定が示された。また今年度でモニタリング委員の2年の任期が終了するため、来年度も再任していただけるよう主任研究者より各委員にお願いがなされた。またモニタリング委員の業務量が多いため、委員の増員が望ましいとの意見が出され、新たに委員に就任していただける可能性のある方を現職の委員より推薦していただけるようお願いがなされた。